



114
A1355

イオルスホール社中ノ吉田新田埋立貸金
取極始末

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈



第一イオルスホール商會ハ千八百七十年ノ十一月ヨリ是ノ吉田
埋立ノ為メニ金融ヲ始メ當年迄追々金融ヲ致シ東
レリ

第二右ノ如クシテ追々貸来リタル金高ハ洋銀三十三万四千四百
四十八弗二十四セント、成リ而シテ其利莫ク最初ノ約定後ハ
二年二割四分ノ割合故十八百七拾四年ノ十二月三十一日迄其ノ
全数洋銀六拾五万〇三百三十弗五拾五セントナリ
第三然レモ是ノ金融ヲ得タルハ各其行業上ニ不韋ニ之レ

アリシ故ウオルスホールの社中ニテ、是、金融ヲ成シ受テント
望ミタル都而ノ利益ヲ打捨而シテ、是、金、拂出スル利
是、則、一、年、一、割、二、分、割、ラ、以、テ、貸、金、ヲ、受、テ、ン、テ、ラ、以、テ、以、テ、
故、ニ、ウ、オ、ル、ス、ホ、ー、ル、社、中、ハ、其、の、貸、金、ノ、高、ヲ、洋、銀、四、拾、四、万、四、千、
百、八、十、七、弗、二、十、五、セ、ン、ト、ノ、高、ニ、減、省、ス、然、レ、ハ、其、高、ハ、則、チ、其、
社、中、ニ、テ、現、今、迄、元、利、為、メ、ニ、拂、出、シ、タル、高、ナ、リ、然、レ、ド、モ、
是、利、是、ハ、千、八、百、七、十、四、年、ノ、十、二、月、三、十、一、日、迄、算、当、シ、タル、ナ、リ、
第、四、都、而、ウ、オ、ル、ス、ホ、ー、ル、社、中、ニ、テ、拂、出、シ、タル、金、ハ、千、八、百、七、十、
二、年、ノ、十、二、月、三、十、一、日、迄、ニ、總、金、返、却、皆、済、致、ス、ベ、キ、ナ、リ、確、定、シ、
有、ル、ト、雖、モ、今、日、迄、戻、リ、タル、金、更、ニ、之、レ、無、シ、

第五其ノ埋立ノ出来シタル土地ハ凡九萬坪程ニ道敷ヲ除
キ凡六万三千坪程住家ヲ建築スベキ処アリ其地畝ハ是
ノ事業ヲ起シタル日本商人ノ名ト成リ居リ凡半分程
ウオルスホールの社中ノ年ニ渡リ在リ外半分程ハ其社中者
トニ未タ其地割リノ年ニ預ケアルナリ
第六現今其土地ノ地徳金ハ今年凡一万二千円程ニ其ノ
土地四分ノ一ハ既ニ貸渡シタリ
第七是埋立人ハ是土地ヲ埋シシニテスニ廣大ナル地割ヲ造リ
石ヲ以テ波止場ヲ建築シ今既ニ出来シテ人民ノ公用スル処ナリ
第八今所會所ニテ政府ヨリ扶助ヲ受ケ之ノ土地ノ全務ヲ

保タシトテ起正セリ既ニ其ノ以謂テ妻化シタル願書ヲ依リ
區戸長並ニ當港商人ノ代トシテ重立タル商人故人潤印ヲナシ
政府ニ送達アラヌニ既ニ當縣令ニ差出し置タリ而シテ是
願書ハ政府ヨリ四十カ円ノ高ヲ借用セントテ要クル者ナリ
第九然レドモ政府於テハ毎年元利ノ拂戻ヲ當縣ニテ請合
ハンコヲ望ムルニ縣令ハ是土地ヨリ年々ノ收納ヲ得ルト虽モ
其拂戻ノ請合ヲ為スニ現今ノ処ニテハ不相當ナリト推察有ル
ナリ
第十右ノ説ヲ以テ我々考フニ當縣令公ニ極漢ノ未末ノ一ハ
信用薄キ者ト思ハルナリ而縣令公ハ是區割及ビ波止場ニ直

打ハネリ無キ者ト成サルレドモ古尋ハ大公業ニシテ其ニ已来
ノ商業ノ力メ並ニ防固ノ便利ヲ澄スル処ナリ
是區割ヲ造リ且波止場ヲ建築セシハ其ノ他ノ事業ヨリ
大金ヲ費シタリ何ントナレハ若是兩物セクシテ只湿地ニ方採
ヲ埋ムニ現今迄費シタル金高ノ半高未滿ヲ以テ充分ナラ
ザリシナラン
第十一然レニ縣令公ノ考ニテ是事業ニ關係シタル人ハ是ノ
金高ノ力メ三十カ金高ヲ受外ニ政府ヨリ別故差困アリ
タル臨時ノ事業ノ入費九萬圓ヲ加ヘ都合五三十四カ円ヲ
受ケベシ然レバ區割ノ力メ是金高ヲ借ルニ先故政府ヨリ

望コル、此ノ請合ヲ成セントサルハナリ

古ノ法ニ從ヘ、ワオニスホール社中ニテハ、其拂出タル正金百兩リ
大金ヲ換ス然レドモ、社中ニテハ、是事件ヲ駭怪シ以テ、
是ノ為ニ司法ノ廳ヲ煩、ナリ遊ケント望ム故ニ其ノ商會
ニテハ、此ノ企ヲ成ントスルナリ

第一政社ニ於テハ、當縣ニ三十万田ヲ貸渡サレ、縣令公ノ仰
ノ如ク請合ヲ受ケ、地券ヲ引當ニ取リ、而シテ、當縣ニ
直ニ其ノ三十万田ヲ賣カルスボール社中ニ拂遣ハサレ、今
其ノ社ニテ、似持スル如ク、昔田埋立會社、関スル如ク、貸
金借入等受ケ、疾サレ、其社ヨリ、是ヲ發シ、皆謝ノコトヲ

記タル返書ヲ可受ケ

第二堀刺并、波止場ハ、肝要ナル公業ニシテ、今ノ平民
ノ金ヲ以テ作りタル者故、是等ノ者ハ、政府ノ官屬
ノ者ニ成シ、而シテ、政府ニテハ、是ノ物ノ為メニ、十五万田、
高を拂、横濱繁榮ノ為メ、高縣下ニ遣ハサルベキナリ
尚右ノ金ハ、賣カルスホール社中ニ拂、遣ハサルコト命ズル
ベキナリ

第三堀刺并、臨時ノ業、為メ、山下ケニ相成トシ、採、
蘇ホ極タル等田ハ、政府ノ者ト成シ、石ノ一、五万田ノ内ヨリ
引去ベキナリ

右ノ如クニテ整理果スルハ別々ニシテアルスルハ社中ニテ元
 利合セテ受取ベキ金高別々六十万圓及ハ百味掛
 出セシ金高四十二万圓ノ時掛トシテ四十二万圓別々
 銀四十万圓未滿ヲ受ルル
 斯ノ如ク損失ハシアルスルハ社中ニハ嚴苦トシテ
 是企テシタル如ク相整ニ於テ其社中ノ混雜ヲ減シ
 而シテ其社自己ノ借金ヲ拂ヒ戻シ能ク成ヤリ

於横濱

明治三十四年
 十二月

建言

歐米諸國ニテ、其ノ私民ノ公業ヲ成シ其レガ爲メ混雜ヲ受
ケタル人ヲ格別ノ所置ヲ以テ扶助アルハ是迄常ニ其政社
ノ風習ナリ是ノコトアル以謂ハ大國ノ政社ニ於テ私民ノ利益
ヲ奪フノ利ヲラズ政社ニ於テハ實大自由ノ法ヲ行フコト通
例承知カレ、レバナリ

横濱ニ於テモ沼地ヲ埋メ堀割ヲ穿タレトスルハ日本政社
爲メニ斯ノ如キ大氣ナル奉勸ヲ成ス別段ノ理アリ依而其
ノ理ヲ今此謹テ奏申スル政社甚慮アラシクコトアリ
第一柳ニ是ノ事業ハ肝要ナル者ニシテ横濱ノ後部ニ

位置スル沼地ハ長久住民ノ為メニ疾病不快ヲ醸ス
原由ナリシガ故其ノ地ヲ埋メ立ルハ緊要用ナル者ナリ

又掘割ハ商業ノ盛ニスル便利ノ者ニテ防固兵法ノ要
セラル、時ハ其ノ海ニ近新道ヲ開キ政府ニ於テ要
望サレマシ者ナリ

第二横濱ノ日本商人ノ數人は是ノ地方官ノ誘導ヲ以テ

沼地ヲ埋メ掘割ヲ造ラント企アリシハ是沼地ヲ埋立
バ其ノ地徳金ヲ以テ其掘割ノ出費ヲ拂ヒ能フト恩察ニシタ
ルナリ

其時代ニハ横濱ハ繁昌シ其人口ハ日々増加シテ其

余ノ地ニ要ナリ而シテ是ノ全業ヲ成就スル出費ヲ計算
スルニ凡ニ二十七万円程ナリ

第三右等ノ日本人ハ自分ノ金ヲ不持故ニ八百七十年ニ於テ
米商商人ヨカルスホーン社中ニ二十七万円ヲ借受ケテ

以テ起企セシトスルヲ業ハ政府ニ於テ取極ラレ政府
ニ於テ均玉ナル孤ニシテ廣大ナル利益アルヲ申述セリ

第四ヨカルスホーン商會ニテハ右ヲ信用シタル故請求ヲ
レタル金融ヲ為シ共利差ノ良キ割ヲ約シ而シテ逐脚皆

併ニ二年間ト約シテ金融ヲ始メテ一致セリ亦タ埋立
地ハ都而其ノ貸金ヲ為メニ其社ニ引當ニ入レント一致セリ

第五其時分ハ斯ノ如キ土地ヲ外國ニ引當ニ入レルヲ許サレカルハ有テノ無キハニテラ日之地方官程テハ是起業スル者メニテ外國商館ヨリ金融ヲ教セシハ良ク知ラレ、ふテリ

第六是ノ起業ハ千七百七十年ノ一月頃ヨリ相始コレリ然レモ其業進ムニ使ヒ其ノ入費ハ最初積リニ高ヨリ大ニ高ニ山丘岩礁ヲ穿テ且ツ政府ノ令ニ從ヒ掘削ヲ穿テレハ莫ク不空費ノヲタリ而シテ水支等數千ヲ用ヒ其等ノ人ハ大ニ良キ給料ヲ受タリ然レドモ是ノ業ハカボラズ最新拂出サント一致セシ高

ヨリ忽チニシテ多クノ金ヲ要シ且ツ時同ラ費スヲ明ラトシリ

第七ウガルスホノ商會ハ其要セラル、ムノ金ヲ融通ニ過聊期限ニケ年ノハ甚ク忽チテ四ケ年ヲ待テリ

第八然ルニ傍候ノ繁榮衰、商業ハ衰微ニ尚新現ル土地ヲ格別人用セザルニ至レリ

千七百七十五年ノ大火ニハ是埋立地ハ其ノ難澁人ノ立跡ヲ場ト成リタレモ無地代ニテ貸渡サレタレハ其地主ハ更ニ利潤ト成ラズ而シテ其後直價ヲ増加セズ

是ノ未再ニ傍候ノ繁榮衰立戻ル時ハ其ノ地ハ直折ス者トテ然レドモ現今ニテハウガルスホノ社中ヨリ金融

ヲ受ケル人ハ一人モ其金ヲ消脚シ能フ者無レ而シテ
其高ハ大ニ高ハクモ是ハ更ニニ成リタル者

第九
ウカルスホール社中ハ日已ニ是ノ事致カノタメニ苦難スルナリ

其社中ニテハ通例ノ商業ヲテ斯ノ如ク大金ヲ得ルヲ能
ハザル故ニ掘削並ニ埋地等ノ為メニ費セラレタル金高
ハ外國ノ銀行ヨリ借来リ而シテ其ノ借金ノ為メハ既ニ大
金カ利息トシテ拂出セリ

現今其銀行ニテモ元金ノ拂戻ヲ請求スル既ニ其期
限モ過去致シタルバウカルスホール社中ニテハ是ハ他
不信用ヲ受ルルカ或ハ危難ヲ受ケズシテハ猶豫ヲ成シ能

ハカルク

第十然レモ日本ノ借用人ヨリ更ニ取戻スル不能是地
並掘削等ヲ企ル人ハ負且不幸ニシテ今彼等ノ成
シ能ハ所ハウカルスホール社中ニ是地如ク折任セシト
スル已ナリ而シテ其社中ニテハ其レヲ引受ケントス

第十然レモ外國人ノ其土地ヲ所用スルハ國律ノ許
カハル如ク何トナレハ外國人ノ永メ得ル疆界ノ外部
タレバテリ故ニウカルスホール社中ニテハ其土地ヲ如何
為スル不能只其社中ニテ地所ヲ見止シ政府ヲ満足
サマシ為大金ヲ融通シタルモノニテ政府ニ於テハ其ノ

事情ヲ賢知アラザルモ其他如ク所持スルハ國法ノ
免サルルハ計其ノ内ニ人トシテ能ハガルトリ
其社中ニテハ是ノ範圍ヲ持スルヲ不能ル不直ノトハ
態ニ成サレシ如クニアラザルハ篤ト知ルハト雖モ其權其
實ニ態ニ成サレシ如ク其社中ニテハ苦難スルナリ
第三 新採タル有様改メラルスホレハ社中ニテハ今政府
ノ救助ヲ求メントス而シテ其レヲ成サニハ其社中ハ同
法ノ廳ニ詐ハ其ノ社ハ外國人ナルニ其ノ住居ヲ求メシ如ク
人民ノ為レハ其ノ社ノ商業トハ相違シタルヲ救カテ金テ
之為メニ大ニ苦難ヲ受タルヲ許ハントスル也

第十三 若シ其社中ノ損失ハ私用ノ相度目込等ノトヨリ起
リシ老レバ今其ノ救助ヲ以テ人程ナカルベシ然レドモ其
社ノ資金大數ハ廣大ナル垢剥希ニ波止場ヲ作ラシ為メ
ニ用ヒラレ其等ハ私民ノ惠便ニハ成ラズコトヲ只政府已
ノ惠便ト成モノナリ

第十四 斯様ナル事業ヲ其儘置キ且ツ事業ヲ起ス萬費
ヲ整ヘレ外國人ニ大損ヲ与ヘ其儘置クハ威嚇アル且ツ
廣明正大ノ所如アル政府ニ對シテハ快カラサル者ナリ而

シテウオルスホールの社中ニテハ是ノ事實ニ付日本政務在
職ノ聰明獻智ノ大臣ノ明慮ヲ受ケ其ノ社ヲ為ス
最モ所要ニテ救勅ヲ受ケ^レ城ニ外ナリ
シオルスホールの社中ハ既ニ拂出シタル金高ノ全數總條
取テ来ラス然レドモ是ノ事務ヲ速カニ取極メシ為ルニ
全數ヨリ大金ヲ減有セト欲スルナリ而シテ別紙始末
書ノ通り其仕向ヲ企望セリ
ウオルスホールの社中ニテハ是ノ~~建~~言ヲ謹テ天皇陛下ノ諸大
臣ニ呈シ而シテ速ニ大惠アル明慮ヲ下シ賜ハラニテ
望ム處ナリ 於横濱千八百七十四年十二月

演告

當縣令公ハ少カハ私民ノ為ニリ思ハル、ヨリ其縣下總
 体ノ為メヲ量ラリ、ハ至當正直ノノト我等知ルト是
 我等ハ是ノ掘割ヲ作リ、ハ私勢ノト思察シ且ツ只沼地
 ヲ埋ケル為メニ作り、是者ト思察シ能ハサルナリ
 是ノ大費ヲ以テ掘割事ニ没止場ヲ作ラント一致セシ以テ
 是沼地ヲ埋立テ、是ノ許ヲ受テ、其ノ較トニテ起業
 者ナリ而シテ是沼地、以テ六万三千坪ノ地ヲ得、ハ
 是ノトニ関ルタル人、政府ノ尚メヲ思ヒ、國恩ヲ教ヤント、且
 政府ニ於テモ是ノ起業ノ成功ヲ望シ、レ、公證スルナリ

政府ニ於テハ掘削ヲ出費無クシテ作ラシムルコトヲ切望スル其時
限ニハ横濱ノ繁榮スル模範ヲ以テハ是ノ如ク願望ヲ成
シト自然勢ヲ付テ且ツ成切ヲ成スルニ容易ナル者ト見ユ
亦是ノ地主等モ是ノ土地ヲ埋立ント切望スル斯ノ如ク掘削
ヲ成スル其地代ヲ以テ充テ其入費ヲ拂ヒ去ルコト更
察シタルハ是沼地理立並ニ掘削ハ兩業ニ取裁
然レモ其ノ成果ハ各人ヲ失望セシメタルコト之レ全ク務
頃商業ノ不景氣ニ基キ土地ハ前以テ高キモノ價ナリ大ニ減
若シ且ツ是掘削ヲ成スニ思慮セシ金高ヨリ大ニ高シタ
ル基キナリ故ニ一ノ利ヲ得ズニテ二ノ損失ヲ成ス理ナリ

若シ沼地已ラ埋立只一ツノ損失ヲ成シ苦難セシトナレバ
今更ニ村ヨリ救助ヲ求ムルノ理ナカルベシ只沼地已ニ以
テハ今拂出タル金高ノ半高キ満ラ以テ出表セシナラシ
而シテ多分ノ金高ヲ要セシハ則チ掘削並ニ波止場ニ至
是ホノ公業ハ政府ニ已ニ直打アル者ナリ
是ノ掘削並ニ波止場ヲ造リタル人ニハ其ノ両物ハ必ズ
下ノ他ノ人民ノ如ク何ノ直打モ無キナルニ是國ニ對シテ
ハ商業並ニ防固兵法ノ為メニ直打アルナリ
斯ノ如ク有極致政府ニ對シテハ實大ニ推慮アラセラ
レ其掘削並ニ波止場ヲ出金タル人ニ其高キ辨度

サレニトラ望ムルアリ 尚右等ノ為ニ迷フル金高ハ比較ニ
テ、其入費ハ概シヨリ 遂カヤキキ者ナリ
是金幣ノ取極ニ達ニ成シ且ツ静初ニ成サン為メハウモル
カホール社中ニテハ約定ニ従ヒ受ケルキ利益ノ大收ヲ打捨テ
ル巴ナラズ尚正味拂出シタル金高ノ内ヲ大ニ減者ニトス
其社中ニテ斯ク致スハ是ノ行業ノ為メニ大惠ニ與社ヨリ
受ケル日ナ人ニ不當ノコトヲ為サズ莫大ニ推考ヲ加メル
始ホコ成ニトテラ顯スナリ而シテ其社中ニテハ其ノ意ヲ決シ是
レノ損失ヲ受テガラシメ今政府ニ詐、報願ヲ請
フムナリ

Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript page. The text is written in brown ink on aged, yellowish paper. The script is dense and appears to be a form of Arabic calligraphy, possibly Nasta'liq or Maghribi. The page contains several lines of text, with some words or phrases written in larger, more decorative characters. There are also some smaller, less legible markings and what appears to be a small signature or mark on the right side. The paper shows signs of wear, including small holes and discoloration.